

現代英語に現れた『ハムレット』の中の“out-Herod Herod”

—「ヘロデ公式」に顔を出す特徴ある政策で知られる合衆国大統領—

大西 博人

1. はじめに

歴史的に評価の高い文学作品には、有名な一文や台詞が数多く含まれており、それらは現在まで多くの人に広く知られている。特に、聖書やシェイクスピアの作品は、これらの表現で満ち満ちていると思われる。その一つにシェイクスピアの代表作と評価されている『ハムレット(3幕2場14)』の中の有名な一文、“It out-Herods Herod.”がある。

この文中の“Herod”は、ユダヤ王ヘロデを動詞化し「ヘロデ王を上回る」という意味で用いられている。ヘロデ王は、王位を得るために多数の血縁者を殺害したことで知られている。彼はイエス誕生の数日後、東方の国の3人の学者からユダヤに生まれた「新しい王」のことを聞き、その出現にうろたえ不安を覚えたのである。マタイ伝(Matthew 2:16)によると、彼はイエスの誕生を恐れ、ベツレヘムとその近郊を一戸余さず調べあげ、2歳以下の男の子すべてを残酷非道にも殺戮したのである。彼はこの「幼な子殺し」の8年後に亡くなっている。

2. 『ハムレット』の中の“out-Herod Herod”

この一文は、第2場(城内の広間)の冒頭で、ハムレットが役者3人に科白の調子や演技一般について語る場面で現れる。そこで彼は、演技の過度の誇張を戒めるため、暴虐の限りを尽くしたことで知られるHerod王を喩えに持ち出し、その「ヘロデ王を上回る」ような振る舞いをしてはならないという意味で、“out-Herod Herod”という表現を用いている。

O, it offends me to the soul to hear a robustious, periwig-pated fellow tear a passion to tatters, to very rags, to split the ears of the groundlings, who for the most part are capable of nothing but inexplicable dumb shows and noise. I would have such a fellow whipped for

o'erdoing Termagant. It out-Herods Herod. Pray you avoid it. —*Hamlet*, Act 3 Scene 2: 8-14¹ (下線部は筆者による。以下も同じ。)

(ああ、まったく頭にくる、鬘をつけて荒事をやる奴が激情のままにがなりたて、何もかもずたずたに、木っ端微塵に引き裂き、せいぜいのところ訳のわからぬ黙劇か騒々しい立ち回りか、そんなものしか面白がらぬ平土間の見物の耳をつんざいて、独り悦に入っているのを聞くと、あんな奴には鞭をくれてやりたくなる。なにしろ回教の荒ぶる神ターマガントも尻尾を巻く騒々しさ、ユダヤの暴君ヘロデも顔負けの乱暴狼藉ぶりなんだからな。あんなことは絶対にしないように、いいな。)²

今やこの有名な一文は、Herodの箇所を他の固有名詞に変え、「out-固有名詞+固有名詞」という形式で一種の公式的表現として現代英語に顔を出す。この表現を便宜上「ヘロデ公式」と呼ぶこととする。

3. 現代英語に現れた「ヘロデ公式」

現代英語に現れる「ヘロデ公式」の固有名詞は、最近の合衆国大統領を始めとするアメリカの著名人、組織や集団、国際的優良企業や商標名などである。

著名人としては、アメリカの有名なトーク・ショ어의ホストRush Limbaugh (out-Rush Rush Limbaugh)、映画俳優Sylvester Stallone (out-Rambo Stallone)、前米連邦通貨準備局理事会議長Volcher (out-Volcher Volcher)、アメリカのカルビン主義のルーツとなった宗教改革者Jean Calvin (out-Calvin Calvin)などが、特定の集団としては、アメリカの共和党(out-Republican the Republicans)、日本人(out-Japanese the Japanese)、西洋(out-Westernize the West)などが見られる。これらは、時事問題の分野で特定の文脈に適合するものが比較対象として用いられる傾向がある。

国際的企業としては、ドイツのBMW(out-BMW BMW), 日本のトヨタ(out-Toyota Toyota), ホンダ(out-Honda Honda), ソニー(out-Sony Sony), アメリカのマクドナルド社(out-McDonald McDonald), アップル社(out-Apple Apple), グーグル社(out-Google Google)などが「ヘロデ公式」に用いられている。これらはその創業の歴史の長短に関わらず、いずれも各々の業界を代表する優良企業である。それゆえ、しばしば企業競争において、比較対象の企業として用いられるものと思われる。

本稿では、これらの多様な固有名詞を含む用例のうち、最近の合衆国大統領に限り、この「ヘロデ公式」が現代英語の中でどのような「比較基準」として現れているかを、用例を通して検討する。

4. レーガノミックスによる経済再生と冷戦早期終結を果たしたレーガン大統領

第40代レーガン大統領は、ハリウッド出身で、映画俳優としてよりも俳優組合の指導者としてその弁舌で知られた、歴代大統領のうちで国民に人気のあった一人である。レーガンは人気のなかった民主党のカーター大統領の後を引き継ぎ、70歳直前の1981年1月20日に最年長大統領として就任し、2期8年間大統領を務めた。彼は巨額の財政赤字を膨らませたものの、大胆な経済政策により経済復興と失業率の低下を実現し、強硬な対ソ外交により軍事的に「強いアメリカ」を復活させたと評価されている。

就任当初から経済を刺激するための政策として「供給サイドの経済学(supply-side economics)」を打ち出し、大型減税や企業の自由競争による活性化を大胆に推進し、時にはストライキを続けた航空管制官を全員解雇するという厳しい対応を取った。彼の経済政策は、その後“Reaganomics”と呼ばれるようになった。次の用例は、レーガン大統領のタカ派ぶりを「ヘロデ公式」を用いて、“out-Reagan Reagan”と表現している。

① In the Northeast, Reaganomics is an issue in the Massachusetts Governor's race. Curiously, that battle is being fought within the Democratic Party. Conservative Governor Edward King has been endorsed by Arthur Laffer, the guru of supply-side economics, who praised him for out-Reaganing Reagan.

—Time, September 20, 1982, p.36

これは、民主党候補同士によるマサチューセッツ州知事選で「レーガノミックス」が争点となり、現職保守派知事 Edward King が経済政策として本家本元の「レーガン大統領を上回る」大胆なレーガノミックスを打ち出したことを評価する報道である。キング知事が共和党大統領の経済政策を選挙戦略として強力に打ち出したことを、“out-Reagan Reagan”と表現しているのである。

レーガン大統領は、米ソ冷戦でアメリカを勝利に導いた大統領として高く評価されている。彼は、映画『スター・ウォーズ』のダース・ベイダー(Darth Vader)率いる帝国の連想から、ソ連を「悪の帝国(Evil Empire)」と呼び、戦略的防衛構想(Strategic Defense Initiative)という宇宙空間でソ連の核ミサイルを撃墜するという壮大なミサイル防衛網を打ち出し、その構想に大量の予算をつぎ込むことで、経済的疲弊で苦しむソ連指導部に軍事拡張競争では「アメリカには勝てない」と思わせ、その結果、アメリカが冷戦に勝利したのである。

次の用例は、レーガン大統領のソ連に対する「悪の帝国」と、ブッシュ大統領のイラン・北朝鮮・イラクに対する「悪の枢軸」というレトリックを比較している。

② If Bush just happens to enjoy wearing Western clothes, and he just naturally says what he means and means what he says, and if he has good reasons for singling out Iran, North Korea and Iraq when there are plenty of other nations that have similar track records, then I think his chances are pretty good of bringing long-term benefit out of a seemingly moronic statement.

If he's simply trying to out-Reagan Reagan, then I think he's going to find that he has made matters worse, because he's not a good actor. —thecitizennews.com, February 27, 2002

ブッシュ大統領は、かつてレーガン大統領が「悪の帝国」のレトリックを用いて冷戦に勝利したように、「悪の枢軸」のレトリックを用い、同時多発テロ後の世界のリーダーシップを続けようとしたのである。しかし、ブッシュは単に「レーガンの上に行く」

ことを試みても、事態を悪くするだけであろうと報じている。なぜならば、レーガン大統領は、国民に希望と夢を与える演説内容や弁論術により“Great Communicator”というニックネームで知られる優れた俳優であったからである。

また、「ヘロデ公式」“out-Reagan Reagan”と同様な表現として、“be more Reagan than Reagan”も用いられたことがある。

5. 教育と黒人の地位向上に尽力したクリントン大統領

第42代大統領クリントンは、アーカンソー州知事からホワイトハウス入りをし、レーガン・ブッシュの12年間続いた共和党政権から民主党政権を2期(1993-2001)取り戻した。彼は民主党本来の福祉や教育に重点を置いた政策を遂行しただけでなく、臨機応変に共和党の政策をも取り入れたことで知られている。

一方、当時野党であった共和党議員団は、クリントンに対抗するために教育により多くの予算を充当することを検討したのである。シンシナチ・ポスト紙は、その経緯を次のように報道している。

③ The congressional Republicans, who haven't had much truck with their long-term principles in quite a while, now figure to out-Clinton President Clinton by outspending him on education. —cincinnati.com, February 25, 1999

共和党政議員がクリントンの教育予算よりも多くの支出を考えていることを、つまり「クリントンを上回る」ことを“out-Clinton Clinton”を用いて表現している。ここでの比較基準は「教育費の予算額」である。このヘロデ公式では、肩書きPresidentを入れて現職大統領クリントンを強調している。

クリントン大統領はまた、黒人などのマイノリティーに配慮した政策を取ってきたことでも知られている。以下の用例は、同じ民主党の2004年大統領候補John Kerryとクリントンの対黒人政策について述べている。

④ At first, Kerry seemed to be interested in the plight of African Americans. He even said he wanted to be America's second “black President.” A former (black) Clinton official

responded by saying, “That ain't gonna happen. He's not going to out-Clinton Clinton, and if he tried, he would look phony.” Kerry seems to agree, and has all but abandoned his black constituency. —znetmag.org, July 7, 2004

クリントン大統領は、黒人の多いアーカンソー州リトルロックで生まれ、幼いころより黒人の中で育ったこともあり、黒人の心をつかんでいた。彼が大統領選で2度も勝利したのは黒人票のおかげであると言われている。このことはノーベル文学賞を受賞した黒人女流作家トニ・モリソン(Toni Morrison)が、クリントン大統領を“our first black President”と呼んだことから伺える³。そのことを念頭においてケリーは、「アメリカの2番目の『黒人大統領』になりたい」と言ったのである。

ここでは元クリントン政権の高官は、ケリーがクリントンのように黒人を取り込もうとしてもニセモノに見えるため、「クリントンを上回る」ことをしようとはしないだろうと発言している。ここでは「黒人票を獲得すること」が比較基準となっている。

次の見出しは、共和党が民主党のクリントン大統領の政策を超えようとしていることを伝える記事につけられたものである。ここでは共和党は、好景気による財政黒字を、全体的な支出は抑えるが社会保障を増額し、個別に防衛、教育、児童福祉の支出を増額し、かつ減税することを打ち出している。

⑤ Republicans try to out-Clinton Clinton — U.S. News & World Report, April 5, 1999, p.12

共和党は、共和党本来の政策を残しつつ民主党の政策を取り入れようと考え、その大胆な取り組みで「クリントンを上回る」ことを試みたのである。「クリントンの民主党的政策全般を上回る」ことを、“out-Clinton Clinton”と言い表している。

クリントン大統領は、教育福祉政策だけでなく、犯罪処罰の強化、警官の増員、銃規制法の立法化など多くの成果を取めた。しかし、1998年初めに表面化したホワイトハウス研修生モニカ・ルウインスキーに関わる「不倫偽証疑惑」の中で、大学時代のマリワナ吸引や兵役忌避に始まり、アーカンソー州知事時代からの女性問題も浮上した。その後、12月に下院で「不倫偽証」に関して弾劾賛成決議がなされ、翌年1月、上院で弾劾裁判となった。好景気の社会

環境も大統領に味方し、上院での弾劾裁判で有罪に必要な3分の2の賛成票に達せず、クリントン大統領は大統領職を失うことはなかった。しかし、歴史に残る大統領となることを目指してきたクリントンが、その目的を果たすことは困難だと思われる。

6. 対テロ強硬外交政策を追求したブッシュ大統領 Jr.

2000年大統領戦では、共和党候補ブッシュと民主党候補ゴアがフロリダ州の開票結果をめぐる紛糾し、その勝敗決定までかなりの時間を要した。全投票数ではゴアが上回っていたが、裁判所の判断をも巻き込んだフロリダ州の勝利の結果、ブッシュがより多くの選挙人を獲得し大統領選を制し、第43代大統領となったのである。

2004年大統領選は、消費者運動の先鋒として知られているRalph Naderも出馬したが、事実上、2期目を目指す現職ブッシュと民主党候補ケリーとの戦いとなった。選挙戦の争点は、イラク戦争の正当性が中心となった。選挙戦の前半ではケリー候補がリードしていたが、8月末の共和党大会以後、ブッシュ大統領が逆転してリードした。10月には3回のTV討論が両者の間で行われ、3回の討論を総合するとケリーが優勢となり、支持率で劣勢を挽回した。両者は投票日前日まで互角であると報道されていたが、結果は現職ブッシュが僅差で大統領選を制した。

共和党と民主党以外の独立候補として30数州で立候補資格を得たラルフ・ネーダーは、イラクから米軍が撤退することを要求した。以下のロサンゼルス・タイムズ紙とデンバー・ポスト紙の両例で、ラルフ・ネーダーはケリー候補のイラク政策を批判している。彼は、ケリーが必要に応じてより多くの兵をイラクに派兵して米軍のイラク統治の継続を主張していることを非難し、「ブッシュを上回ろうとしている」と述べている。

⑥ Nader, speaking at a breakfast with reporters, pointed to Kerry's experience as a Vietnam veteran who turned against that war in the early 1970s.

"I wish he would just repeat what he said when he was 27 years old before the Senate," Nader said. "Which is, 'How do you tell a soldier to die for a mistake?'"

He accused the Massachusetts senator of trying to "out-Bush Bush" on Iraq. — latimes.com, April 20, 2004

⑦ "The peace movement in this country is going to have an interesting choice," says Nader. He calls for a withdrawal of U.S. forces, and says that Kerry, by endorsing a continuing American presence in Iraq, is trying to "out-Bush Bush." — denverpost.com, April 25, 2004

2004年の大統領選挙ではイラク戦争とテロ対策が最大争点となり、これに対する両候補の主張が注目された。そのためケリー候補は、テロ対策においてブッシュ以上の強硬策を打ち出し、「ブッシュを上回ろうとしている」と報じられることが多くなった。

次の用例は、過去3人の大統領が同時に持ち出されている。ブッシュとゴアが接戦を演じた2000年大統領選直後の報道で、どちらが大統領に選ばれても多くのアメリカ人はその大統領の正当性に異議を唱えるだろうと報じている。

⑧ Whoever is eventually permitted to take office on January 20 is now likely to out-Ford Ford, out-Carter Carter, and out-Clinton Clinton in terms of utter dependence. Millions of Americans—including many who we thought had lost all interest in the legitimacy of their rulers—will question his legitimacy. That's a problem even Ford—the "appointed president"—never faced. — thornwalker.com, November 11, 2000

どちらの候補が大統領となっても、その当落を投票による偶然性に依存することにおいて「フォード大統領やカーター大統領やクリントン大統領を上回る」と表現している。フォード大統領の場合は、ニクソン大統領が辞任したため副大統領であったフォードが大統領に昇格したのであるが、それは偶発的なことであった。カーターもクリントンもワシントンでは無名に近かった南部の州知事であり、選挙戦の前半では大統領となる可能性は低く、両氏が大統領となったのには偶然性を伴っていたという認識があった。このようなイメージのために、3人の大統領がこの公式に組み込まれ、ブッシュ・ゴア戦に現れたものと思われる。

7. まとめ

シェイクスピアが『ハムレット』の中で用いた一文, "It out-Herods Herod." は極悪非道なヘロデ王を比較の対象とした否定的な意味をもつ比較表現であった。このいわゆる「ヘロデ公式」が現代英語, 特に時事英語で比較表現として用いられてきているが, これまでに紹介した大統領についての用例では否定的な意味合いは見られない。

これら的大統領がこの公式に現れた理由は, レーガン大統領の「徹底的な規制緩和を伴うレーガノミックス」と「軍事的に強いアメリカを復活させることによる冷戦早期終結」, クリントン大統領の「大胆な共和党の政策の導入」と「黒人の地位向上における尽力」, ブッシュ大統領の「強硬なテロ対策とイラク攻撃」など, それぞれの大統領というイメージが人々の間で定着し共通理解されているからであろう。これらのイメージが「ヘロデ公式」に取り込まれ, 一種の比較表現ないしは強調表現として用いられていると思われる。これら的大統領の場合, この公式は否定的な意味合いをもたず, その強烈な個性とそれから派生する特徴ある政策のために用いられるのである。この公式は, ここではむしろ中立的ないしは肯定的な意味で用いられていると言える。

現在ではこの公式は, 原文にあるような悪い意味

をもつ強調表現としてではなく, よい意味での迫力ある比較表現となっている。今やヘロデ王の影が消えた「ヘロデ公式」は, ごく普通の比較表現として定着していると言えよう。

注

¹ William Shakespeare *The Complete Works*, eds. Wells, Stanley and Gary Taylor. (1991) Oxford: Clarendon Press. p.671.

² William Shakespeare, 野島秀勝 訳 (2002) 『ハムレット』 岩波書店 pp.153-54.

³ cf. *Time* 1999, February 22, p.39.

参考文献

- 青木保 (2003) 『多文化世界』 岩波書店
 石井美樹子 (1984) 『中世劇の世界』 中央公論社
 石澤靖治 (2004) 『アメリカ大統領の嘘』 講談社
 高崎通浩 (2002) 『歴代アメリカ大統領総覧』 中央公論社
 ボラー, ポール・F, Jr., 吉野寿子 訳 (1999) 『ホワイトハウスストーリーズ』 三省堂

(兵庫県立星陵高等学校教諭)